

## 社説

「中部は一つ」という言葉が、鳥取県中部地区ではよく使われる。県の真ん中に位置し、倉吉市を中心にその周りを湯梨浜、三朝、北栄、琴浦の4町が取り囲み、いずれも同市から車で約30分以内で本庁舎を結ぶ。それだけにまとまりやすいというわけだ。

そついった背景もあって1998年に「鳥取中部ふるさと広域連合」が発足。全国で初めて県の権限移譲を受けた広域連合の誕生だった。管理事務が中心だが、最近では地域振興にも力を入れている。

新年度からは、県中部地域はもとより岡山県の蒜山地区も含めた広域観光に取り組んでいる「とっとり梨の花温泉

なりがた。

「中部は一つ」の掛け声は響けども、まとまりそうでもまとまらない地域柄でもある。

郷連絡協議会」の事務局が、倉吉市から同広域連合に移る予定だ。これにより、今後さ

### 広域連合の観光振興

## 「鳥取県中部は一つ」で促進を

らに広域観光促進に弾みがつくものと期待したい。

### 地域振興の柱

これまで何度も、広域観光という言葉で施策が提案されてきたが、「言っは易し、行

うは難し」である。どうして自治体の壁やそれぞれの観光地の考え方に違いがあり、実際の取り組みは中途半端に

図るための組織改編も考えられているという。

### ネットワーク強化

山陰にはいいところがたくさんある。「梨の花温泉郷

の鳥取県中部地区にも三朝、はわい、東郷、関金の四つの温泉地をはじめ、三徳山、赤瓦・白壁土蔵群、東郷池、コナンの里、船上山など素材はある。だが、残念ながら一つ

一つのインパクトは弱い。このため、各観光地を効果的に結びつけて魅力をアップさせ、新しい観光商品、旅行

商品を作り出してアピールしていくことが求められる。また、各地域でさまざまなイベントを展開しているが、それが単発で終わってしま

ぐ隣のイベントすら、知らないでいることも多い。

地域を良くしたいという同じ思いを持った人たちが情報を交換し、刺激し合えば、内

容を向上させることができ、人を呼ぶこともできる。これらのかじ取り役がこれまで明確でなかっただけに、広域連合はその役割を担うのにつ

ま、まちづくりにかかわる人のネットワークを強化し、観光地を点から線、さらに面に広げ、車で1時間圏内の鳥取県中部地域が「中部は一つ」の観光エリアとしてまとまる。

そして、そのネットワークを駆使して魅力を高めていけば、新たな可能性と展望が開けそうな気がする。新年度からの鳥取県中部ふるさと広域連合の取り組みに注目したい。